聖書研究　チャペル 新訳聖書　６～８章

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　文責　五マ

【要旨】

人が増え、悪が地にはびこるようになると、ヤハウェは、最初の「生めよ、ふえよ、地に満ちよ」という祝福にもかかわらず、人を造ったことを悔いて、地上から滅ぼそうと決意する。ただし義人ノアには方舟の建造を命じ、3人の息子を含む家族は難を逃れる。生き物も方舟に運び入れられる。40日間降り続いた雨の後、アララト山にとどまった方舟から出たノアたちがヤハウェに生贄を捧げると、ヤハウェは「私は二度と地を呪わない。人の考えることは幼い頃から悪い」と語る。結局、悪はぬぐい去られることはなかったのか？

【知識】

ネフィリム：天使と人間の子→当時の人間はより強い神性を持っていた。

ゴフェル：杉の木

１キュビト（アンマ）：約４５cm

神の子ら：男は堕落した御使いのこと、女はカイン系の堕落したアダムの子孫

【冒頭の質疑応答】

・ノアは120年以上生きてない？→洪水が起きたのがこの記述より120年後。

ノアは神性を備えた人間の一人。

・上記のようなあらゆる質問に一応の回答は用意されています…。

【問い】

・なぜ人間に絶望した神は、人間以外の生き物もろとも地の世界を滅ぼしたのか？→なぜノア含め一部の生き物を残したのか？また土から作ればいいじゃん。

前半：人間のために作られた動物だから。

後半：ハ：愛着湧くんじゃない？

け：自分で作ったゲームで遊ぶようなものでは？

・6.3意味を考えてみよう。

け：現世的なものにこだわるなという意味では？

T：現世に執着しないように企図したのでは？

先生：霊：＝アッハ（希語：息）

人は土に“息を吹き込む”ことで作った。

→神の息は魅力的→ヘブライ語劇では人間が物の怪と交わる上で対象として魅力的であるという描写がある（ハイブリッド）

ネフィリムとかは異教の神のことでしょう。（天使崇拝）

巨人とかもこういった箇所から生まれているのでしょう。（力はあるけど恐れられる存在、ハイブリッド）

・6.6人を造ったことを悔やんでるってどゆこと？神は全能じゃないの？

* 悪が増大した人間って、どんなことをしていたのだろう？

ハ：神から離れることでは？

先生：神ではない方向に導くことかな。

　　　その文脈でいうなら不純同性交友、快楽のための性交は当然該当するよね。

* 神に従う無垢な人間ノアは、他の人間とどう違うか？

ハ：言い訳をしない。言われたことをそのままやる。

先生：5章のレメクの発言…。4章のカインの子孫とは違うはずだけど立ち位置は近いよね。

（6章8節に関する資料）

先生：「主なる神の目に恵みを見出した。」

→日本語では「主の好意を得た」

→義人とは：神が見込んだわけではない。神の恵みを見出しているから、神の指示に従った。

→実際に言いたいのは神が恵み深い方だということ。

・6.18なぜ契約をする必要がでてきたのか？契約って具体的に何？

+9.11で神は人間以外の生物とも契約を立てている。

・7.2/7.3　清い動物、清くない動物って？7つがいって？

食えるか食えないかですよね。

・神は人間に愛想つかしたのか？ノアの一族に神は期待していない？

・結局、大洪水によって悪を消し去ることはできたのか？

・クリスチャンの立場になって、この物語について考えてみよう。

先生：聖書における契約とは？

「お前たちを守るよ」とまず宣言。

→守ってもらうためには以下のことを守りなさい。（バランスが一方的）

→王様が町を治めるときに用いる契約。（「王の契約」）

→国とか自然についても契約を結ぶことができる。

→守ると言っているのに滅ぼすのはなぜ？（矛盾）

→古代文明は洪水を起こす大河川の近く。死と再生は表裏一体で身近なもの。

（例：大震災後の釜石市民にとっての海）